

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

研究科・専攻	大学院 情報理工学研究科 総合情報学専攻 博士前期課程		
氏 名	宮林 卓郎	学籍番号	1030091
論 文 題 目	テキスト内容に適したフォントの推定 - 色彩と感性語を介して -		
<p style="margin: 0;">要 旨</p> <p style="margin: 5px 0 0 0;">◆研究の背景・目的 近年ではブログサービスなど、個人表現の機会が増加してきている。しかしながら、デザイン知識のないユーザにとって、制作意図に合わせた色彩やフォントの選択は容易なものではない。そこで本研究では、ブログサービスなどのデザイン作成支援となることを目的とした。飯場ら(2011)では、テキストを入力することで テキスト内容に適した色彩の推定を行うシステムを提案している。このことを利用して本研究では、テキストを入力とすることでテキスト内容に適した色彩、感性情報、フォントの順に推定するシステムを作成した。</p> <p style="margin: 5px 0 0 0;">◆方法 テキスト内容から色彩を推定するモジュールについては、飯場ら(2011)を利用した。その際に、より多くのシーンでの使用に耐えうるように、被験者実験により色彩を選定しなおした。また、それに伴い、単語が持つ色彩のイメージについても被験者実験により調査しなおした。これにより、テキスト内容に適した色彩の推定を可能とした。次に、色彩から感性情報を推定するモジュールについては、単色が持つ感性イメージを被験者実験により測定し、色の組み合わせに適した感性イメージの推定を可能とした。そして、感性情報からフォントを推定するモジュールについては、フォントが持つ感性イメージを被験者実験により測定し、感性情報とフォントがもつ感性イメージとの間の類似度を計算することで、感性情報に適したフォントの推定を可能とした。以上のモジュールを組み合わせて、テキスト内容に適した色彩、感性情報、およびフォントの推定を行うシステムを作成した。本システムの認知的妥当性の検証として、「本システムが出力したテキスト内容とフォントとの類似度」と、「被験者実験により得られたテキスト内容とフォントとの適合度」、この両者間での相関関係を調査した。</p> <p style="margin: 5px 0 0 0;">◆結論 検証実験の結果、上記の両者間に相関関係があるという結果が得られた。また、同時に帰無仮説の有意性の検定を行ったところ、9テキスト中8テキストにおいて認知的に妥当であるとの結果も得られた。このことから、色彩と感性語を介してテキスト内容に適したフォントを推定する本システムの認知的妥当性が示された。</p>			